

## 令和3年度東北地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会 議 事 概 要

1. 日 時 令和4年 3月16日(水) 14:00～15:30

2. 場 所 東北地方整備局 大会議室

3. 出席者 委員長 飛田 善雄 東北学院大学名誉教授  
委 員 赤石 雅英 公認会計士・税理士  
委 員 真田 昌行 弁護士

4. 議 事 令和3年度  
東北地方整備局コンプライアンス報告書(案)について  
令和4～令和6年度  
東北地方整備局コンプライアンス推進計画(案)について

5. 各委員からの意見・質問等

### 【意見】

- ・やらなければならないことはほぼ実施されている。
- ・コンプライアンスのための制度が何重にも設けられ、多重防護されており、良いことだと思う。
- ・具体的な事例に基づくミーティング実施は非常に良い取組である。
- ・長時間労働はコンプライアンス違反要因の一つでもあり、疲れていると、まともな対応ができず、ハラスメントの遠因になることがあるので気をつけていただきたい。
- ・コンプライアンスにばかり時間を使いすぎているか。リスク0(ゼロ)を求め、過度な取組を実施するよりは、致命的な失敗だけは避けるという発想があっても良い。
- ・各省庁でコンプライアンスへの取組はなされているが、省庁毎の固有の業務と一般的な業務とメリハリを付けると良いのではないか。

## 【質疑応答】

◆ Q 1 実施されている各種コンプライアンスの取組の所要時間はどの程度か。

A 1 コンプライアンス推進本部会合は毎月40～50分。  
外部講師による講習会は質疑応答を含め1時間半（年2回）  
コンプライアンス・ミーティングは各所属で1回30分（年2回）  
セルフチェック、e-ラーニングは個人差があるが15～30分程度。

◆ Q 2 長時間労働に関して何らかの対策を取る予定はあるか。

A 2 これまでも超過勤務縮減の取組を進めており、引き続き取り組んでいきたい。

◆ Q 3 コンプライアンスに関する周知の項目が多岐にわたるので、その中でも致命的な失敗を重点的に教えるようにした方が効果的ではないか。

A 3 研修等で職員に周知する内容は、その都度他機関も含めて大きな問題となった具体的な事案を題材に、致命的な失敗となる箇所を強調したものとなっている。時を経て職員に周知が行き届き、あるいはシステム的にミスが発生しようのない状態になれば、周知の内容から外すこととなるが、他方、別の問題が発生すれば新たな項目が付け加わることとなる。

## 6. 整備局からの発言

本日は貴重な御意見をいただいた。

長時間労働に関しては、コンプライアンスとは別に職場で取り組んで行く。

不祥事が発生すると、その対応のための業務が増えていく。

コンプライアンスに時間をかけすぎているか、というご指摘もあり、業務改善も同時に進めていければと思う。今後ともご指導の程よろしくお願ひしたい。